
あいうえお小説 2

のみのみの

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あいうえお小説2

【Nコード】

N6271L

【作者名】

のみのみの

【あらすじ】

「あ」から「わ」までの四十四個の音（「ん」と「を」は除いてあります）を、四十四文それぞれの頭に順番に持ってきて小説を書いてみました。第二弾。受け入れることのできない女子の結末。

あいつは馬鹿だ。

一体何人が私の事をそう評しただろう。

生まれつきの事なのにそれを馬鹿にされる。

鉛筆、消ゴム。

おぞましい思い出達が蘇る。

簡単には消すことができない。

傷付けられ。

苦しんで。

けれど、傷付ける事はできなつた。

これまでにいい思い出はあつただろうか。

探して探して探して。

しかし、悲しくなってくる。

直ぐに諦めて、前を向いた。

世界は私と常に一緒だつた。

そこに、一筋の光があつたのだ。

ただ、世界は受け入れても何も応えてはくれなかつた。
違う、とも、違わない、とも。

強くなりたいたと思つたこともあつた。

手先を器用にしたいと思つたこともあつた。

兎に角、他人に受け入れて欲しかつた。

仲間に入れて欲しかつた。

にもかかわらず、私は何もしなかつた。

抜け出して、逃げてしまつた。

ねえ、私はどうするべきだったのかな。
乗り越えられる未来もあったのかな。

話しかけても誰も答えてくれるはずもない。
独り。

踏みしめた地面は柔らかく、私を丸ごと包み込んでくれそうだ。
凹まして、少しだけ笑ってみた。

仄かな光が射し込んで、私を物語の主人公のように照らし出す。
周りには誰もいない。

見に来る人などいないのだ。

無駄だと思い、自嘲気味に一笑。
目を瞑る。

もう、世界ともさようならをしよう。

やがてそれは未来に掻き消されて、元通りになるから。
夢になるから。

呼ぶ声に気付き、私は歩き出した。

楽になるのとは本当は違うのかもしれないが、私は選んだ。
理由など簡単で、私はただ、続けたいのだ。

流転する世界には、私はただの米粒にしか過ぎないから。
連続する流れのほんの一部にしか。

ロウソクに火をつけ、僅かに考える。

私は、何がしたかったのだろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6271/>

あいうえお小説2

2010年10月10日07時36分発行